

新聞部獨立

本年度より校友會部の徹底及び文化運動の門に新聞部が獨立し、向上及び學校と家庭との間に文化面に貢獻することとなつた。新聞の公器としての重要性は、新聞の獨立を世論が支持したことによつてもわかる。今更論するまでもないが、本新聞の經過に就いては、さかたに御協力をお願いする。本新聞は昨年七月本校生徒に對する情報「意思」に用ひられず、

THE SENDAI HIGHSCHOOL
川内高等学校新聞

發行 鹿兒島縣 川内高等學校 PTA 文化部
編輯 鹿兒島縣 川内高等學校新聞部
印刷 久保印刷所 電話二八番

離任の辭

前校長 逆瀬川 助熊

可愛山の楠の若葉にかぎりなく心ひかれ、去り行くわれは

私の敬愛する生徒の皆様。若き學徒の使命は、情緒の純化と知性の向上とにあり。情が純化され、知性が向上され、從つて各自の能力が漸次擴大され、從つて幸福は増進する。又正を踏んでゆかないため、勇氣を持つことが必要であり、今日若き女性にこれが最も必要である。皆様、よくよくと大きく育つて呉れ。

私一生の感謝深い思い出となること、思ひます。茲に皆様方の寛大な御態度に敬服すると共に、將來ある若き男女に間違ひのない

よう御指導を御願致します。今や永吉新校長を迎へ、又近く天皇陛下の御巡幸を仰ぎ、本校の前途には洋々たるものがあります。御多幸を祈ります。

の御愛顧の賜でありまして、感激に堪へませぬ。鶴丸校は鹿兒島高校第三部第五部を併合したのが母体であり、これに第六部と通信教育部を併設した複雑膨大な學校であり、また、全生徒教職員すべてが、全高女校舎にまゝて、御指導に御出で下され、御待致して居ります。折は御立寄り下さいませ。

別れのことは、もつと知性を！ 田原文雄
舊制高女校生の眞のライオンは、その弊衣破帽にあつたのではなく、彼等のパバリズムには知性の裏附があつた。その外観だけを私にこの言葉を川内高女の生徒諸君に饒とした

新任に當りて

校長 永吉 徳一保



着任してまだ日も浅いので、簡単に所感の一端を述べることとする。「教育を重視する民族は繁栄し、これを輕視する民族は滅亡する」とは、著名な史家の言である。この力強い意味深遠な言葉は、近年、眞刻に取上げられること

の御愛顧の賜でありまして、感激に堪へませぬ。鶴丸校は鹿兒島高校第三部第五部を併合したのが母体であり、これに第六部と通信教育部を併設した複雑膨大な學校であり、また、全生徒教職員すべてが、全高女校舎にまゝて、御指導に御出で下され、御待致して居ります。折は御立寄り下さいませ。

民族の信仰 江口日海夫
ユダヤ人は國は失つたが、尙その民族的の神の信仰を保つから、今に民族としては世界に属する人々が或一定の目的を以て結合する集團、例へば學術研究會、労働組合という如きものである。かく社會を分類すると世界は血縁及び地縁を極大に及び地球の表面に全人類が分布した(人類は及んで押し進んだ)上、基礎社會である。かかる世界社會が現存するか、或いは將來存在し得るかに

世界社會について

教諭 中尾 亨

世界社會についてという様な題を掲げると、お偉い方々からは、そんな自由な机上の空論は、よせとお叱りを受けるかも知れないが、私にとつては一片の机上の空論とは思われないのである。基礎社會といふ言葉は、先ず世界社會といふ言葉から規定しなければならぬが、世界社會は、各民族の間に亘る集團である。

如何を問はず、地球上すべての人々を成員とする社會であるといふ。擬社會の分類法は色々あると思ふが、ここでは一應基礎社會と派生社會に分ける。基礎社會とは血縁とか地縁によつて結合され、交渉が生活の全に亘る集團である。

得ないであらうか。門外漢の私にはよくは分らないが、佛教に於ける衆生という語或いは考へ方は國家、民族を越えて人間を意味しはしないか。そして、嚴格なカースト(身分層)に縛られた印度人も、或いは我國の目下「丁字」に於ける老人達も容易にこの觀念を理解し得たのではなからうか。この事は、われわれが人間としてお互に親愛の感をその心底に持ち、人類としての一體觀を持つてゐると思はれる

教育移動一覽
三月末日以降の教育移動左の通り
舊一部(五十音順)
池田安行 入來中
池田國義 伊作中
江口日海夫 退職
逆瀬川助熊 鶴丸高
坂元 近 出水高
田畑太吉 出水高
田原文雄 教養事務局
玉江 正 川内市高
中村 繁 種子島高
古市 一 小林高
宮里正信 平佐四中
舊二部
井上清憲 阿久根高
黒江ヨシ子 求名中
立山敬治 國分高
長谷川信行 市來中
春田順行 依願免本官
丸山信男 阿久根中
丸山繁雄 川内小
丸山清邦 川内市高
新任の分
内田瑞枝 高江中
永吉徳一 水引中
永吉保 伊集院高
龍紅美子 新任